

聖心女子大学 2017(平成 29)年度 一般入試(総合小論文方式) 問題

問1 資料1を読み、傍線部(「誕生直後から、子どもがもっている人への関心、人と関わることへの積極的態度は、どんどん強まっています」)で述べられている「積極的態度」には具体的にどのようなものがあるか、解答用紙に例示されている2つの態度の他、7つ挙げなさい。

次頁参照 →

問2 資料2(英文)を読み、その大意としてどれがもっとも適切か、解答用紙に記載されている選択肢から一つだけ選び、その番号を四角の枠内に記入なさい。

次頁参照 →

問3 資料3は、毎日新聞社人口問題調査会が実施した家族意識に関する調査結果の一部である。図1は「老親扶養(老いた親の面倒をみて養うこと)に関する意識の変化」、図2は「老後を子どもに頼ることに関する意識の変化」である。これらのグラフから読み取れることを200字以内で述べなさい。

問4 資料4の傍線部「<わたし>という小さく壊れやすい存在が<わたしたち>というつながりのためにいったい何ができるか、その寄与のあり方を自ら模索すること」の意味するところを、資料1から資料3も参考にしながら、600字以上800字以内で説明しなさい。

【配点】問1・問2・問3：合計150点、問4：150点、総計：300点

【出典】

資料1 柏木恵子『子どもが育つ条件—家族心理学から考える』岩波新書、2008年、176—178頁。

資料2 Lynne McTaggart, *The Bond: Connecting Through the Space Between Us*, Free Press, New York, 2011, pp. 133—134. (文章は一部変更してあります。)

資料3 岩上真珠、鈴木岩弓、森謙二、渡辺秀樹『いま、この日本の家族—絆のゆくえ』弘文堂、2010年、9頁。

資料4 鷺田清一『大事なものは見えにくい』角川ソフィア文庫、2012年、18—20頁。

問1

例 視線を送る

---

例 自分が知っている人の表情や行動を見て安心したり、同じようにふるまったりする

---

問2

(1) 人間の本性に逆らって利己的にふるまい人間同士の絆をないがしろにすることは社会に深刻な結果をもたらし、不公正な社会では貧困層のみならず富裕層もありとあらゆる社会問題に晒されることになる。

(2) 人間は本来だれでも利己的であるから、他人との繋がりを積極的に断とうとしないと、結局は経済的な格差に関わりなく誰もが健康を害するようになる、という驚くべき結果が疫学調査から得られた。

(3) 疾病を社会的観点から研究する疫学に顕著な例をみるように、国際的な調査研究は長期間にわたる困難な作業となるので、個々の研究者が一匹狼にならず互いに協力することを通じて、はじめて万人にとって有意義な貢献がなされる。

(4) 先進国の平均寿命と健康状況を三十年以上疫学的に調査したところ、わがままで身勝手な人が多い社会はだんだんと不公正になっていくから、そうではない人は健康面で貧乏くじを引くことになる。